元寛日記巻

拾一

和書門
類 一五八二六號
函 一七四
架 入
冊 二〇

内閣文庫
和書
類 一五八二六號
函 一六三
冊 二〇
架 一七

内閣文庫
番號 和 15826
冊數 20 (6)
函號 163 186

東四十九

国立公文書館
National Archives of Japan

書籍館

浅草文庫

元寛日記巻之拾壱

元和三巳年三月池田武蔵守利隆
会津中納言忠郷の為に
一度下総国に利隆の先服仕る子
忠継八家康公御娘婿
子忠雄千石中納言官四位侍従御娘婿
取り仕る娘八初小笠原大膳大夫氏也
後宮に取り氏也卒去仕候
家康公御娘池田三左衛門尉輝政に

国立公文書館
National Archives of Japan

小才智、異多く、産く故に武蔵守を
始めとし、松平の姓を賜りて毒飼の
後に病れハ法號の法謚為るとも云
も故ハ武蔵守隆子るまとも惣領
なる故に五十二万石余を領
但し会津松平右兵衛輝澄円九帝太史改姓円喜を
太史擬真知与とも云之
此忽りを實子忠隆に隆志絶へ事を
嵩に欲せらるく依し利隆に毒飼の

事を企らるく忠隆母儀の志しを隆
折し除捌るからぬ誅く云く乳母女人
無き事を目たてんと思ふ時ハ子孫
悉く滅亡し手跡かるハ所継氏
諸事御敬しく然る處しと再三
是を申氏處と思ひるからさるに
取くハ忠隆こまを悲也と或时兄利隆
ト向川く申しくて云若し母儀の方へ
引越しと欲せるときハかるも共忠隆を

石連られ居し自今以後若し猶此類
有ハ七生迄恨を含む居しと云へ
利隆主志を察し是を諾し例を
忠継と同道せし先合事を出し時ハ
忠継先試を後利隆に食せしむる
主故に毒を何事なりとも利隆主
志しの強を感し為に賜しき事
親子の中し或時又利隆忠継少く
同道しし毎後此方に従く時に
饅頭を賞給ハ利隆忠継両人共
為に而こ主と毎後合せられる
毒きれ与合歓有る利隆畏ゆとて
既に れ〳〵是を合んと欲する時
小忠継こ主をおし留免試を刑食
せんと同つ主は毎後兼て配給此女
房を変し第の第ふの如し忠継の
云風味大きに而し合し給居
つ居と制限利隆毒の入る事を

家ふしてく云寶くに出ると食をる物
利隆今に世さるあるき事みるへきうとく
則こをを知くく食沒列只尊人家ま
降るす四人ともに大きに吐血沒煩く
茶を用四るとくくともけハ沒日ふ小
兄弟ともに率沒時ま利隆ゝ島彰
太市光政ハ伯耆国米子ゝ城を領沒
今度父利隆の遺跡を繼く国幡ら
ゝ三十万石を少ゝ改小賜ハ分毎ら

大次賀五市左衛尉康ら娘也
同七日松平丹後ら康長上列高偽
五万石を將ゝ伝列松平城七万石を
賜ハ分二万石ハ加恩ゝり是より郷ハ
常列登間を仕沒年を經沒限に
立身沒是ゝ列ゝ於ゝく患節を
次故に戸田氏を改光松平姓を賜
剃年ゝ主ゝ世ゝ也
同九日云ら三月廿一日　家康ゝ

神霊に東照大権現社号を宣
先達て中納言殿より今日南
正一位を給らる
将軍家御感
悦斜ならず
同十五日 神霊日光山に鎮座遵命に
依て也 右之上様御位牌正純卿
利勝 松平右衛門大夫正久 長谷川藤五郎
板倉内膳正重昌 秋元但馬守泰朝
成瀬隼人正正成 安藤帯刀直次
中山備前守信吉 榊原式部大輔紀伊守
昭八 清久 敬 ～ 時久 と改る 世子
供奉仕
四月日 神霊日光山に為御
同八日 霊柩廣福寺に於て 歛仕
同十四日 神霊を如り屋に移仕
宣命使は阿野宰相実顕卿
同十六日 神霊を二四殿に移仕
宣命使は中御門宰相宣衡卿

奉幣使ハ清涼寺宰相共房也
御同宮御茶礼
菊〻書付を以〻定矢ら〻
同十七日己丑刻御茶礼次第
当甲斐
百人二列
金深の直垂を着し御供を指
天狗出立
大獅子
一人 但面を掛
宿白拍子
二疋二行
八人二列

金深ハ直垂大口を着用二人立
烏帽子を着し神前に於て手人二人八撥を
第一番太鼓打三人白拍を着用
太鼓
二ツ二列
但し二人宛より〻を指手人を人〻定
に付く
笛
二官
鉦持
二人二列
神子女房
八人二行

但し白木長柄中くり拾也

坊主馬上　壱人

神主馬上　四人壱列

神馬　三疋

但し紅白総也掛者白切付梨地に金地

出紋付れ御鞍泥漆八虎皮後の掛ものも

口付有り

御鉄砲　百挺二列

但し猩々皮面白後

御弓　百張二行

但し虎の皮れ空穂

右弓鉄砲の者も儒子れ黒羽織小

一通り筋を付天鵞絨れ袴着れ

御槍　百本二列

但し羽織合紋付

武者　百人二列

但黒札に御威し合甲前立物合れ梅

黄き利ぶ地の太刀也

兒髮日造花さ被

左八黒繻子に金色にて海和あり右ハ赤繻子

に金色にて海和あり

社人　六人二切

但し黒白に縞に紋に捻し段の羽織

菖蒲革に袴さ着る

軍配団　四本

但し砂子にて洗い市紋を浮る

神主　神人

内主人八稽古様市太刀を帯に代袴に入る

紅袴を穿く少目看ふ主人八稽古様乃

市袴を帯の代袴に入る紅袴を穿く

少目看ふ

色し市袴　八本

但し白に指し二人宛にて是を持

俵猿　三十八疋

内四疋八猩々皮の羽織を着る猩々

猿の毛に金を猿の面を御る何も童子也

本猿三十三疋
但し猿引三十三人色々に仕立て被仕候様にと西く
に付く猿小も色々に被仕候様を為せ申
大鼓にて拍子引しくも
獅子 二疋
兒 八人二行
但し冠を為し獅子に付く人々の直垂
を為候
同 五十人二列

但し冠りを為し獅子花を付
大太鼓 二ツ二列
打手三人つゝ
鐘 二ツ二列
白張を為し長を持つ
白張 百人二列
黄白張 百人二列
黄衣付坊主 十人
白張

他佛寺

本大寺号　十二居二切

五寺居白寺十八頭目ノ鴨九

二居

右北佛寺師者人苏黄物衣也

ミ〳〵こ寺也居ル　佛宮北茅ホ〻く

こ寺也家民

松平右衛門大夫

秋元但馬守

諸大夫朱芋北裏米

神輿　流数十人昇

佛跡

神自拾人ニ切　百人ニ切

赤縄巻　百人二切

上下着　打ル者人

太鼓一ツ　五十人

黄衣を巻ル物ヲ

沢ニ

山王権現佛輿　白張数十人昇

素襖着　五拾人
上下着　五拾人
太鼓一ツ　打手壱人
摩多羅神御輿　白張長さ卑
俗称白地と唱ふ大きに非也素盞嗚尊
子り頼朝白山神を勧請して一社に奉
故に時代人頼朝堂と号ス
御供
素襖着　五拾人

上下着　五拾人
太鼓一ツ　打手壱人
山伏　八人
白衣を着し湯杖をはく
山伏　十六人二列
神社篠掛付き笈付き袈裟数珠
山伏　五十人
色々れ袈裟掛笈
以上

同九日越後介将忠惣白此事一九鬼長
門守与隆綱〳〵敬云国〳〵事の故と
云事を忘られ
同五月新日大君薩摩諸国麦他大きに
損ず
同七月十九日従二位尾張義直卿参
俄右近衛中将を転し中納言に任ず
従二位駿河頼宣卿参議右近衛権
中将を転し中納言に任ず

同二十日松平伊豆守信綱伝右初の名前を
常州土浦四万石を改て列す陽
城に於て五万石賜りる也
八月九日 後陽成院崩御
是去る六年中旬比より御ふ豫
此事有りこれに依て典薬寮八
中に及ぶ部鄙地に名を忘
られ生る醫師を召て種〳〵
薬術を尽し療治すると云〳〵

世を去るに御験氣なく終に今日
山崩し流れ出るに依て　後水尾院
今作れる仙洞御殿移り宴来り
御即位料米こと毎年経営仕
同二十九日淺野但馬守長晟の室男
子平産たうまとし産後不快遂云
是ハ　大猷院様御誕生の
御守秀忠卿初の女子之御所なり
秀忠死去れ後作に依て長晟に
嫁仕産せし子成長れ後ハ松平安芸
守光晟と号るハ是也
九月十五日村田将右衛門駿河書付
を以て仰付られ候に小沢漆右衛門
を税江戸並書付を以て作付られ
十月紀伊大納言和歌宇高虎城列
和歌に於て御加増五万石を賜る
井伊掃部頭直孝に近江彦根城
二十万石を賜る此時人大坂表に

於く軍忠いとなれば世御慶長あ
かくれ申し次に本多伯耆守忠政に
勢列業名を改め摂列賜ふに於て
十五万石を賜ふ内五万石は今度増
地加増なり忠政の跡業名十一万石は
松平隠岐守定勝小笠原右近大夫
忠政に摂列の石七万石を賜ふ
本多甲斐守政朝に上総大多喜
をつぐなれん播磨賜ふ内五万石

こまを賜ふ是は美濃守忠政十
万石は外に土五万石は忠政嫡子中務
大輔忠利五万石を次男甲斐守
に活る所なり是皆大坂表北軍
功感せらるる故也
同五日亀井豊前守政矩に石列
洋和野城四万三千石池田備中守
長幸に伯耆松山城六万五千石脇
坂淡路守安元は摂列大洲城を改

本地に〳〵伝列仮田城主万六千石
と賜りし事所大洲六万石加藤左近
大夫貞泰に給りし事別紙間之節之
永井右近大夫直勝同国小鍋二万石
西尾丹後守忠永参列西尾二万石
松平將監成重江列給別城主万
石本多縫殿頭康俊掛川城主
城五万石戸田左門氏鉄同国高槻
城二万石土岐山城守定政に賜
賜ハ或ハ加増ハ本家にて
別紙〳〵作付らるべし

元寛日記巻之十一終

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan